

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室

第 151 回 EC



先生：窒素を撒くと芝が悪くなると思う人は結構いるみたいだけど、それでは良い結果は出ないわね・・・でももっと問題なのは、どのような芝の状態が良い状態なのかきちんとわかっていない人は、枯れそうな芝生を見て「良い芝の状態だ」と考えてしまう、どんな芝が本当に良い芝なのかを理解していない人が多いということが一番の問題なのかもしれないわね・・・

生徒：なるほど、結局芝生の見立てが大事なことですね・・・

先生：肥料が切れて来れば芝生の葉は痩せて細くなる・・・それを見て「細い葉の良い芝だ」言う人もいるし、また肥料が切れてくると芝生は芽数を落として寝てしまうんだけど、それを見て「早いグリーンで良い芝だ」と言う人もいるわ・・・肥料が切れれば緑色も淡くなっていくけど、『淡い緑がいい』なんてのも・・・

生徒：本末転倒ですね・・・

先生：そういうこと・・・気候が良ければそれでもなんとかなるかもしれないけど、年々悪くなる異常気象下では確実にダメージを受ける可能性が上がってくるわね・・・正直私は恐ろしくて見ていられないわ・・・ぜひ『葉色度計』を使って化学的な芝生の元気度を測って欲しいわ・・・ダメにした芝生を直すのは大変だしお金もかかるし営業的にも大損害ね・・・まずいレストランには二度と行きたくないのと同じだわ・・・

生徒：どうしたものでしょうか・・・

先生：肥料が悪くなるというのは、以前に話した『塩害』が唯一の問題だわね・・・それをしっかり理解しないと肥料の正しい使い方は出来ないわ・・・どんな物でも 100 点満点のものは無いのだから、正しく理解して正しく使う・・・これがすべての基本よ・・・

生徒：なるほど・・・

先生：肥料は化学的には『肥料塩（えん）』と言われる陽イオンと陰イオンが組み合わさった物質・・・この『肥料塩』が土壌に撒かれると水に溶けて『水に溶けた塩』となるわ・・・それが時間とともに『塩（えん）』から『イオン』になって植物に吸収されていくのね・・・

生徒：以前に習いました・・・

先生：この『塩』→『水に溶けた塩』→『イオン』の段階の、『水に溶けた塩』の濃度が高くなってしまった状態が肥料焼けを起こす原

因ね・・・

生徒：なるほど・・・肥料の効果を出すための『イオン』を施肥するためにはどうしても『塩』を撒かなければいけないんですね・・・

先生：そうね、液体肥料の場合はすでに一部イオンになっているものもあるからすべてでは無いけど基本的にはそうね・・・その肥料の中の成分がどれだけ水に溶け易いかで、土壌中の水に溶けた塩の量が急激に上がるかどうか分かるわね・・・第 89 回の表を見て欲しいわ・・・

生徒：海水にはたくさん塩が含まれているから、海水をかぶった土壌は塩害土壌になってしまって植物が生えないんですね・・・

先生：そういうことね・・・動物がおしっこをしても塩害が起こって枯れるわ・・・散水の水に塩が含まれてないかも調べた方が良いわね・・・散水水に塩が入っているとインパクトは大きいわ・・・

生徒：塩害は見た目だけでは判断できないですね・・・

先生：実は今は良い物があって、多くの人が使っている**スペクトラム社の TDR150、350 土壌水分計は、土壌水分だけでは無く EC も同時に計れる**のよ・・・

生徒：えっそうなんですか？・・・EC は確か『電気伝導度』でしたよね？

先生：そのとおり・・・『水に溶けた塩』は非常に良く電気を通すので、土壌に刺した二つの電極間に電気を流して土壌中の塩の量を量るのよ・・・

生徒：水分計にそんな使い方があったなんて知りませんでした・・・

先生：単位はミリジーメンセンチメートル、電気の流れやすさを表しているわ・・・まあ意味は分からなくても大丈夫・・・数値的には 1 以下が普通ね・・・肥料を撒くと数値が上がるわ・・・肥料を撒いても数値が上がらなければ肥料の効果が出ないかもしれないわね・・・2 を越えるとちょっと高めだわね・・・塩害に強い芝、バミューダとかシーショアパスパラムなんかはもっと高くても大丈夫・・・肥料をこぼして芝生が枯れた所を測れば 10 とか 20 位の数値になることもあるわね・・・逆に 0.1 以下では肥料が効いていない土壌とも考えられるわ・・・施肥と EC の数値との関連性を日頃から見ておくのは大事な事だわね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》

